



2016

# 環境報告書



## 目次



■目次	1
■トップメッセージ	2
■事業の全体像	
会社概要	3
組織図	4
■環境への取り組み	
活動の歩み	5
環境基本理念/環境企業行動指針	6
ジャムコの事業活動と環境との関わり	7
環境保全活動の推進体制	8~9
主な取り組み	10~11
■2015（平成 27）年度の活動実績	12~18

## トップメッセージ



### 自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します

私たちジャムコは、「自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。」を経営理念のひとつに挙げており、これに基づいて「環境基本理念」、「環境企業行動指針」を別途定め、地球環境保全活動に取り組んでおります。地球環境保全の具体的な活動として、企業経営における優先課題であるエネルギー使用量の削減や廃棄物の再資源化などについて、数値目標を定めて取り組んでおります。

本報告書は、当社の環境保全活動の概要とともに、2015年度における活動の成果を「環境報告書」としてまとめたものであります。当社の環境活動の状況をご理解頂ければ幸いです。



株式会社 ジャムコ 社長

大喜多 治年

## 経営理念

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現において挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。



2005年、創立50周年を機に、創業以来代々の経営者が伝えてきた経営方針の根底にある普遍的な行動原理を再認識し、「経営理念」としてまとめました。

## 事業の全体像



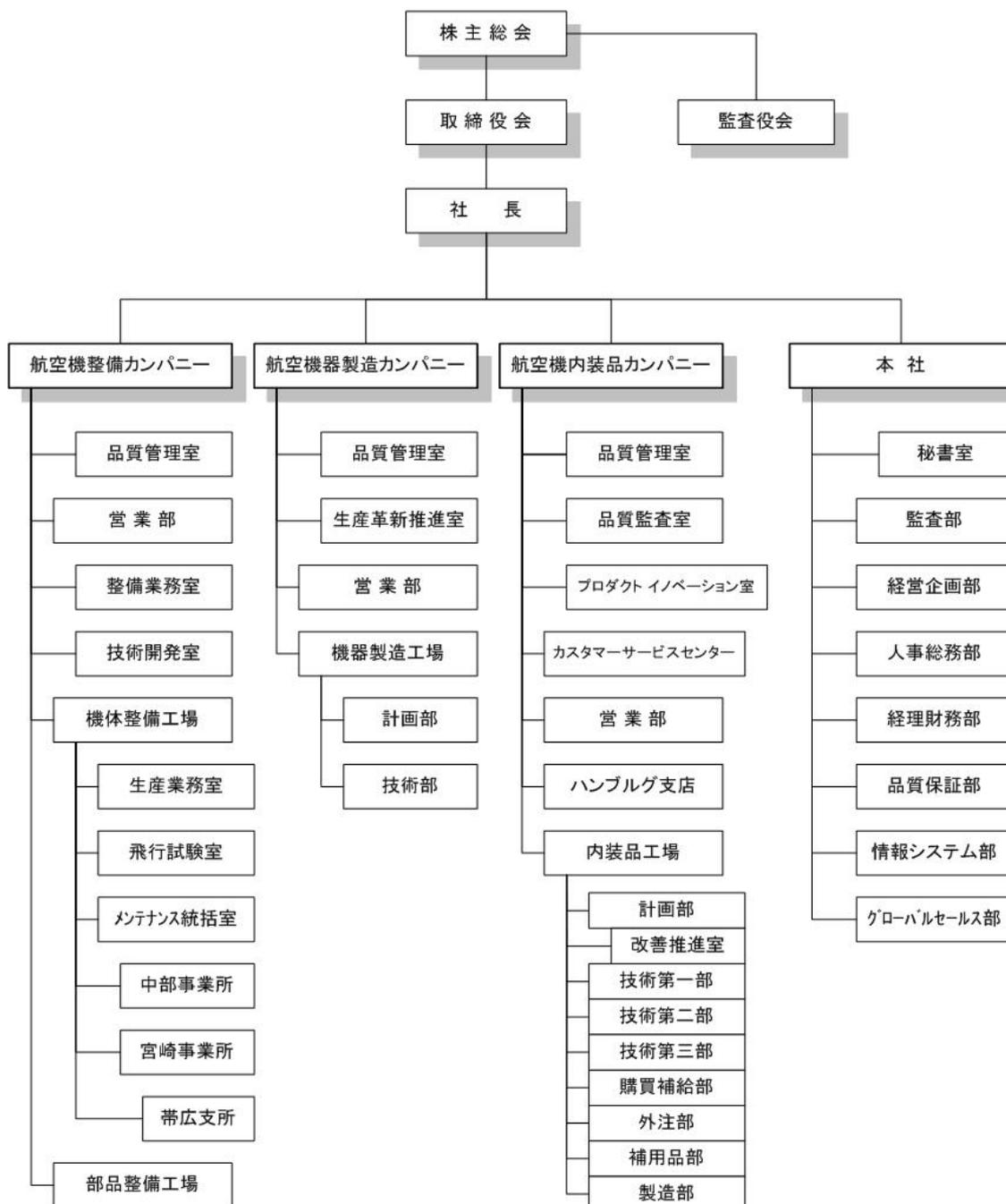
## 会社概要 (2016年6月1日現在)

<b>商号</b>	株式会社 ジャムコ JAMCO CORPORATION
<b>本社所在地</b>	東京都三鷹市大沢六丁目 11 番 25 号
<b>設立</b>	1955 年 9 月 伊藤忠航空整備 株式会社設立 1970 年 6 月 新日本航空整備 株式会社に商号変更 1988 年 6 月 株式会社 ジャムコに商号変更
<b>資本金</b>	53.6 億円
<b>主な事業内容</b>	航空機内装品等製造関連事業 ギャレー、ラバトリー、シート、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機器等製造関連事業 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連事業 航空機の機体、客室、装備品等の整備・改造
<b>社長</b>	大喜多 治年
<b>従業員数</b>	1,209 名、連結 3,109 名 (2016 年 3 月末現在)
<b>主要株主</b>	伊藤忠商事 株式会社 ANA ホールディングス株式会社 昭和飛行機工業 株式会社
<b>連結子会社</b>	株式会社 新潟ジャムコ 株式会社 宮崎ジャムコ 株式会社 ジャムコ エアロマニュファクチャリング 株式会社 徳島ジャムコ 株式会社 ジャムコ エアロテック 株式会社 オレンジ ジャムコ 株式会社 中条ジャムコ JAMCO AMERICA, INC. JAMCO SINGAPORE PTE LTD. JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD. JAMCO PHILIPPINES, INC.

事業の全体像



組織図 (2016年6月1日現在)



## 環境への取り組み



## 活動の歩み

当社では、1998年7月に“地球環境に関する宣言”として環境基本理念、環境企業行動指針を定めて組織的な環境保全活動の取り組みをスタートし、1999年9月に「環境規程」を制定いたしました。

調布本社地区（調布サイト）が全社のさきがけとなって活動を展開し、2000年2月にISO14001の認証を取得いたしました。

2001年4月には「環境規程」の全面改訂を行い、環境保全活動の全社展開を開始しました。

2010年7月には「環境業務標準（EOS：Environmental Operation Standard）」を新たに制定し、ISO14001の認証を持つ調布サイトにならば、そのほかのサイトではISO14001に準じた環境保全活動に取り組んでおります。

- ・ 1998（平成10）年7月 地球環境問題への社長宣言
- ・ 1999（平成11）年7月 調布サイト「環境方針」の制定
- ・ 1999（平成11）年9月 「環境規程」制定
- ・ 2000（平成12）年2月 調布サイト ISO14001 認証取得
- ・ 2000（平成12）年6月 環境報告書 第1版発行
- ・ 2001（平成13）年4月 「環境規程」改訂、「環境保全規則」「環境保全業務細則」制定
- ・ 2002（平成14）年9月 各サイト「環境方針」の制定
- ・ 2006（平成18）年3月 調布サイト ISO14001:2004年版 移行審査受審・認証継続
- ・ 2010（平成22）年7月 「環境保全業務細則」にエネルギー管理等の内容を充実して「環境業務標準」を制定、移行
- ・ 2015（平成27）年3月 調布サイト ISO14001 認証更新（No: YKA0772809）

## 環境への取り組み



## 環境基本理念/環境企業行動指針

### ■ 環境基本理念 ■

人類存続のための地球環境保全は全世界の共通の願いである。

ジャムコグループは、グローバルに活動する企業として、地球環境問題を経営の最重要事項のひとつに位置付け、基本理念を“豊かさと共生できる、地球環境にやさしい企業”として企業活動を行い、地球を守り、広く社会に貢献する。

### ■ 環境企業行動指針 ■

#### (1) 自然環境保全

製品開発、生産、サービスの活動に当たっては地域及び地球の環境保全に努める。

#### (2) 資源の有効利用

環境負荷の少ない製品の開発及び生産・サービスにおいては資源の効率的な利用、再利用並びに環境負荷の少ない物品の利用に努める。

#### (3) 環境関連法規の遵守

国や地方自治体の環境法令・規則を遵守する。

#### (4) 環境保全体制

基本理念及びこの指針に沿って全社及び各サイトで環境方針を策定し、環境保全体制を確立して、定期的に見直し、維持、向上を図る。

#### (5) 環境保全活動の啓蒙、推進

基本理念及びこの指針を全ての社員、関係者に周知し、全員が理解し行動できるように教育・啓蒙活動を推進する。

#### (6) 環境保全活動の公開

基本理念及びこの指針を社内外に公開する。

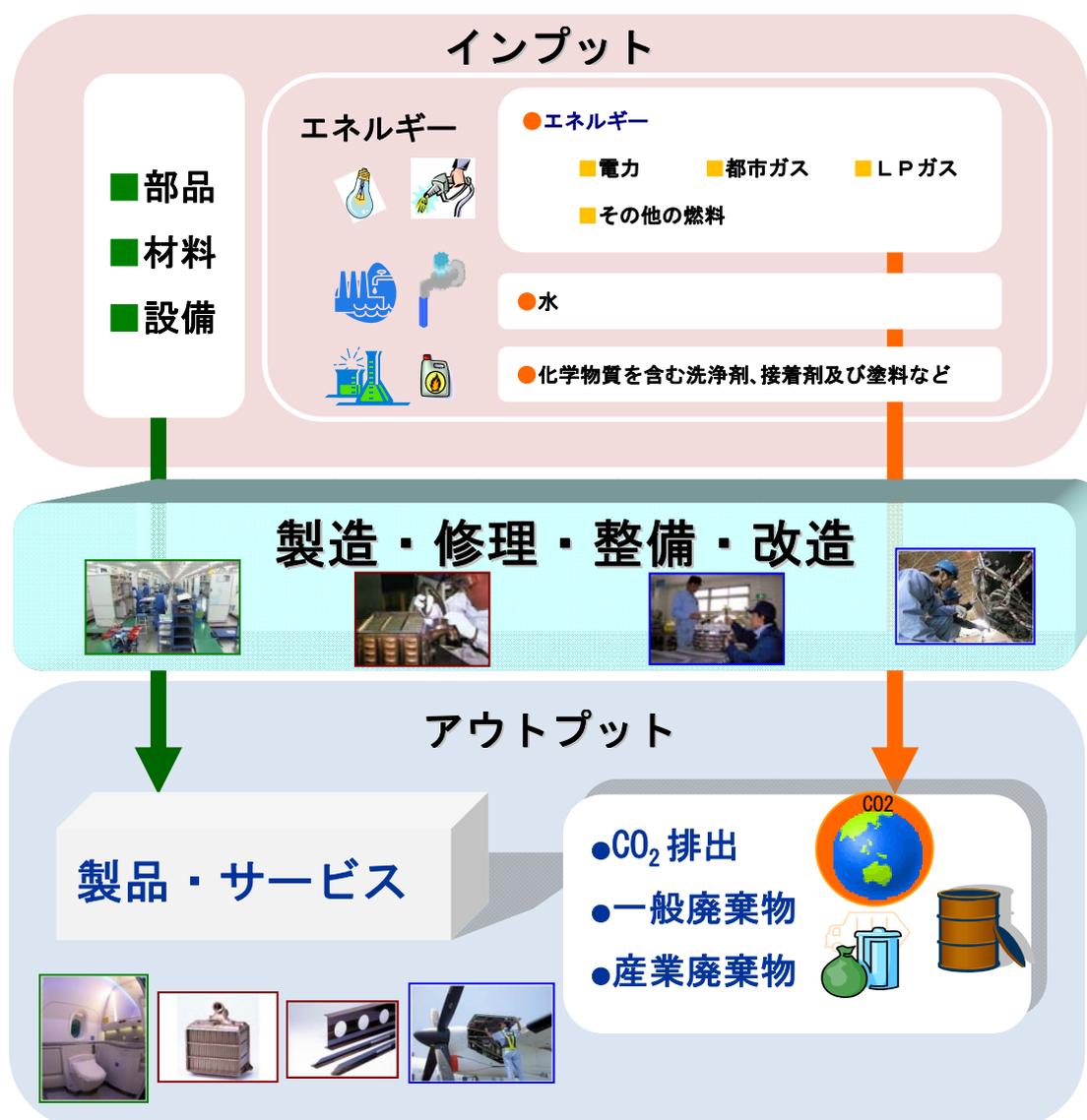
平成 27 年 6 月 1 日  
株式会社ジャムコ  
社長

環境への取り組み



ジャムコの事業活動と環境との関わり

当社では、航空機分野に特化し、航空機内装品及び機器の製造・修理、航空機並びに航空機装備品の整備・改造等の事業を行っています。下図は、当社の事業活動と環境との関わりを表したものです。当社では事業を行うにあたり、多くの資源を消費し、さまざまなものを排出しています。このインプット、アウトプット両面における環境負荷を低減するために、その定量的な把握に努めています。



## 環境への取り組み



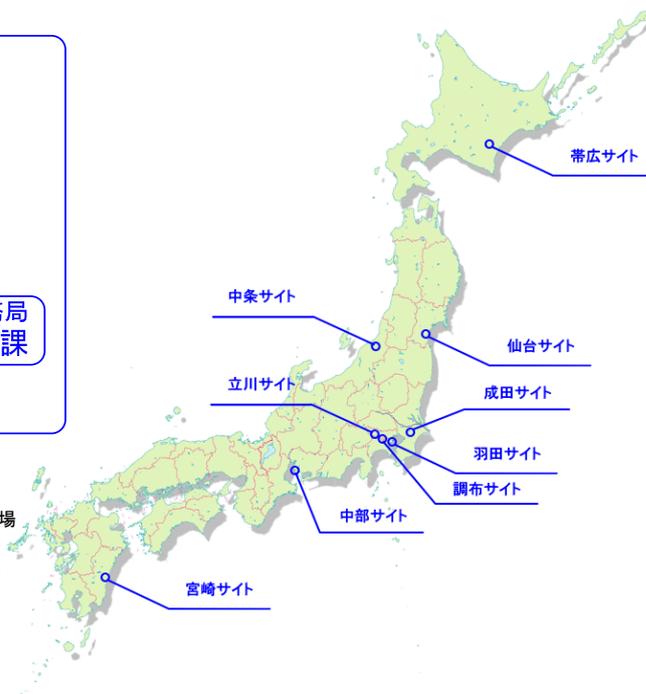
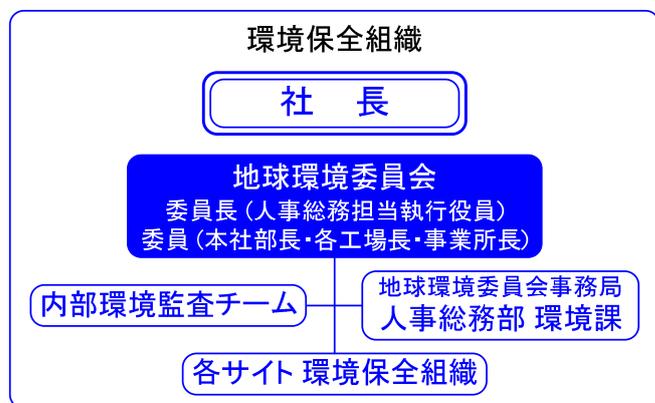
### 環境保全活動の推進体制

#### ■ 1. 全社の推進体制

当社の環境保全活動は、その推進体制と環境マネジメントシステムを整えて取り組んでおります。社長は統括責任者として環境保全活動を統括し、又、人事総務担当執行役員は地球環境委員会の委員長として活動を推進し、マネジメントレビューを行っております。原則として事業活動を行う地域ごとに環境保全活動を一体となつて行うサイトを設け、各サイトでは、サイト環境委員会などを通じて組織的に活動を行っています。

各サイトは、「環境基本理念」、「環境企業行動指針」に基づき、単年度の到達目標として「環境目標」を各々設定し、その達成に向けた計画的な活動の推進と内部環境監査によるチェックなどを通じて、継続的な改善に努めています。

なお、調布サイトにおいては、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムが適切に運用され、且つ、継続的な改善が行われているか、審査登録機関による定期的な審査を通じて適合性評価を受けています。



- ・調布サイト: 本社、航空機器製造カンパニー、航空機整備カンパニー品質管理室、営業部、整備業務室、部品整備工場
- ・立川サイト: 航空機内装品カンパニー
- ・中条サイト: 航空機内装品カンパニー 中条倉庫
- ・成田サイト: 航空機整備カンパニー部品整備工場
- ・羽田サイト: 航空機整備カンパニー部品整備工場
- ・仙台サイト: 航空機整備カンパニー機体整備工場
- ・中部サイト: 航空機整備カンパニー機体整備工場中部事業所
- ・宮崎サイト: 航空機整備カンパニー機体整備工場宮崎事業所
- ・帯広サイト: 航空機整備カンパニー機体整備工場帯広支所

## 環境への取り組み



### ■2. 地球環境委員会

地球環境委員会では、各サイトの活動状況、環境目的・目標の達成状況、内部環境監査の実施状況、是正処置・予防処置などの状況についてマネジメントレビューを行うとともに、法規制及び顧客要求事項の変更などについて報告・討議を行っています。

地球環境委員会事務局では、全社的な環境保全活動が効果的且つ効率的に運用、改善が図れるよう情報を収集し、又、従業員への教育にも力を入れています。

### ■3. 環境監査体制

内部監査・外部審査は、環境保全活動が定められた要求事項に適合し適切に実施されているか、又、その活動が有効に維持されているかなどについて定期若しくは臨時に確認することによって、是正、改善を図るための重要なものです。

内部環境監査チームは、社内規程で定める資格要件を満たす内部監査員により構成しています。内部環境監査は、監査計画、監査チェックシートに基づいて実施しており、管理手順と運用状況との整合性を確認するなどの実地監査に主眼を置いています。監査結果は監査ごとに報告書にまとめ、又、不適合事項に対しては是正処置を求めるなど、改善につなげています。なお、内部監査結果は年度ごとにまとめを行い、マネジメントレビューに反映しています。

## 環境への取り組み



### 主な取り組み

#### ■1. 環境保全活動の推進

年度を通じた環境活動は、経営層によるマネジメントレビューによって総括され、課題については改善に向けて検討が加えられます。その検討を経て決定された重点実施事項に対して各サイトでは、環境目的／目標・実施計画・施策の策定(Plan)、施策の実践(Do)、環境目的／目標の達成状況の確認と活動結果報告(Check)、そしてマネジメントレビュー(Action)へと、PDCA サイクルを回すことで継続的に活動しています。

こうした継続的な取り組みによって、環境に関するさまざまな動きや変化に対応するとともに、役職員の環境意識を高めています。

#### ■2. 環境影響評価及び法規制遵守の管理

事業活動において環境に影響を及ぼす環境側面を抽出し、特に改善を必要とするものや環境関連法令等で特別な管理を必要とするものに関しては、著しい環境側面としてその影響を評価しています。なお、緊急事態への対応に関して、又、排水については必要により自主基準を設け、定期的にチェックを行うなど、重要事項については管理策を強化しています。

#### ■3. 化学物質の管理

事業活動にて使用する化学物質は、性状や危険性及び有害性などに応じて法令等で規制されており、特に有害性の高い物質については、社内規程に管理手順を定め、物質の漏洩や飛散のないよう適切に管理しています。また、実際に化学物質を取り扱う作業者は、必要な資格を保有し、管理手順に基づき適切に作業を行っています。

#### ■4. エネルギー管理

エネルギー合理化のための管理標準(空気調和設備、照明設備等)を社内規程に定め、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

## 環境への取り組み



### ■5. 廃棄物の削減と再資源化率の向上

廃棄物については、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の考えを基本に、その削減に取り組んでいます。

#### (1) 分別管理の徹底

材質別の分別回収を徹底し、金属類及び紙類(コピー用紙、段ボール、新聞紙、等)を有価物等に切り替え、廃棄物の削減及び再資源化(リサイクル)に取り組んでいます。

#### (2) 再資源化率の向上

再資源化率の向上については、廃棄物処理委託先との調査、協議により、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルなどの再資源化品目の増加に取り組んでいます。

#### (3) 廃棄物の適正管理

当社では、廃棄物の処理を委託している業者に対して定期的に現地調査又は情報収集を行い、処理工程の把握、マニフェスト等の記録管理及び許可更新などが適正に実施されているかを確認しています。

#### (4) PCB 機器の保管状況

当社では、PCB(ポリ塩化ビフェニル)を、「PCB 特別措置法」に基づき適切に管理しています。

現在までに廃棄物処理法に基づき廃棄処分が完了した PCB(ポリ塩化ビフェニル)は次のとおりです。

- ・2013年7月立川サイトで保管していた PCB 絶縁油を含んだ三相変圧器(トランス)1台
- ・2014年4月仙台サイトで保管していた PCB 含有蛍光灯安定器 479個
- ・2016年3月調布サイトで保管していた PCB 絶縁油を含んだ油入開閉器 2台

なお、調布サイトでは、蛍光灯安定器 57 個を現在保管しています。これらの PCB 廃棄物については、毎年保管状況を東京都環境局へ届け出るとともに、保管基準に従い厳重に管理し、定期的に保管状況の確認を行っています。

## 2015 年度の活動実績



### ■1. 2015 年度、省エネルギーの取り組み

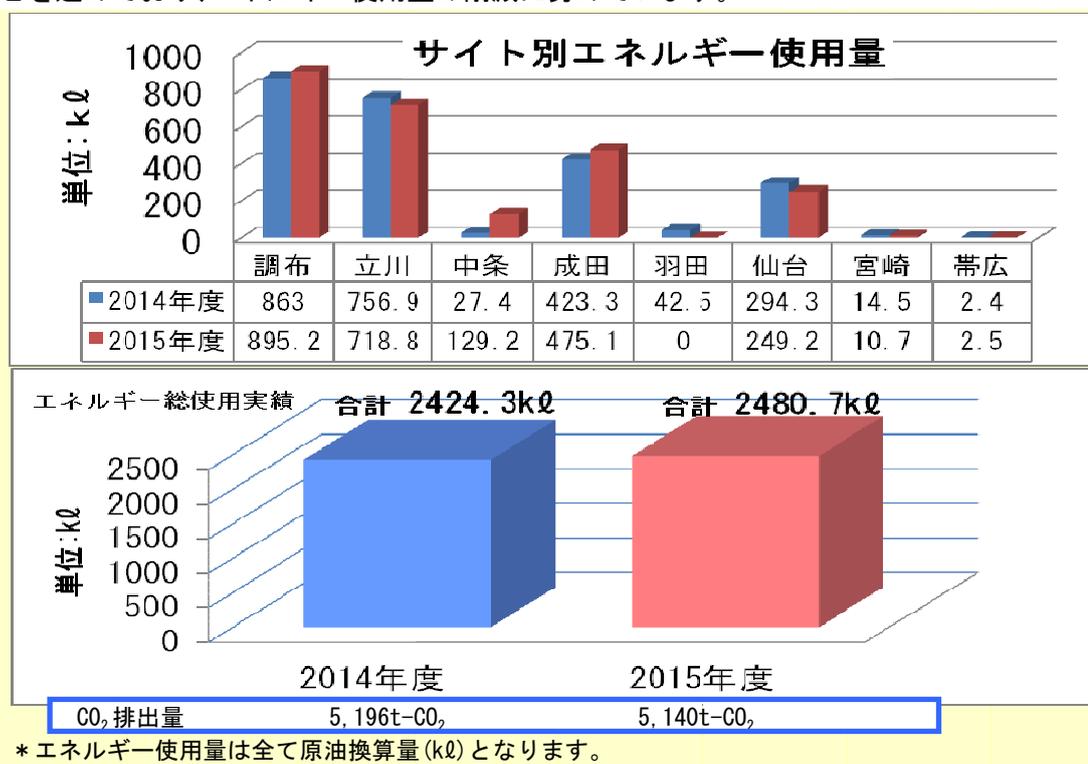
#### <2015 年度全社共通>

目的: エネルギー使用量を削減する。

「電力、都市ガス、LP ガス、A 重油、揮発油、軽油、灯油」

目標: 2014 年度対比 1%以上の削減

当社では、生産設備・空調機器の省エネルギー化、設備の高効率稼働、空調機器・照明器具・圧縮機設備のインバーター化、生産プロセスの効率化や合理化、燃料使用量の効率化などを進めており、エネルギー使用量の削減に努めています。



各サイトでは、空気調和設備（エアコン）の運転の制御、高効率の設備の導入、照明機器の間引き、LED 照明への変更などを行い、エネルギー使用量の削減に努めましたが、2015 年度のエネルギー使用量は、2014 年度比で 2.33%の増加となり、1%以上削減の目標は達成できませんでした。主な要因としては、平成 27 年 3 月より稼働した中条サイトのエネルギー使用量が増加したことです。（各サイトでの削減施策の実施状況は次表参照）

なお、当社のエネルギー原単位（エネルギー使用量を売上金額で除したもの）では、売上金額の増加により、2014 年度 0.03533 に対し、2015 年度は、0.03145 となり、11.0%削減することができました。

2015 年度の活動実績



エネルギー削減対策の実施状況

対策(運用含む)項目		調布 サイト	立川 サイト	仙台 サイト	成田 サイト	羽田 サイト	宮崎 サイト	帯広 サイト	中部 サイト	中条 サイト
変圧器	統廃合	●								
	高効率型の設備の導入	●								
空気圧縮機	エバポレータ設置などにより 夜間運転の停止		●		●					
	吐出圧力の低減	●								
	省エネルギー型設備の導入 (インバーター式)	●			●					
空気調和設備	設定温度遵守 (夏 28℃、冬 20℃)	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	定期的なフィルター清掃	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	省エネルギー型設備の導入 (インバーター式)	●	●		●		●			
照明設備	こまめな消灯(休憩時等)	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	照明器具清掃	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	蛍光灯の間引き	●	●		●			●		
	高効率型の照明設備の導入	●	●	●	●		●		●	●
生産設備	加熱炉への断熱塗料塗布	●								
昇降設備	エレベーターの運転台数変更		●							
その他	未使用時の OA 機器 OFF	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	デマンド計設置	●	●		●					
	低燃費自動車導入	●	●	●						
	自動販売機台数削減	●					●			
	業務工数低減	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●	実施した項目
	非該当

## 2015 年度の活動実績



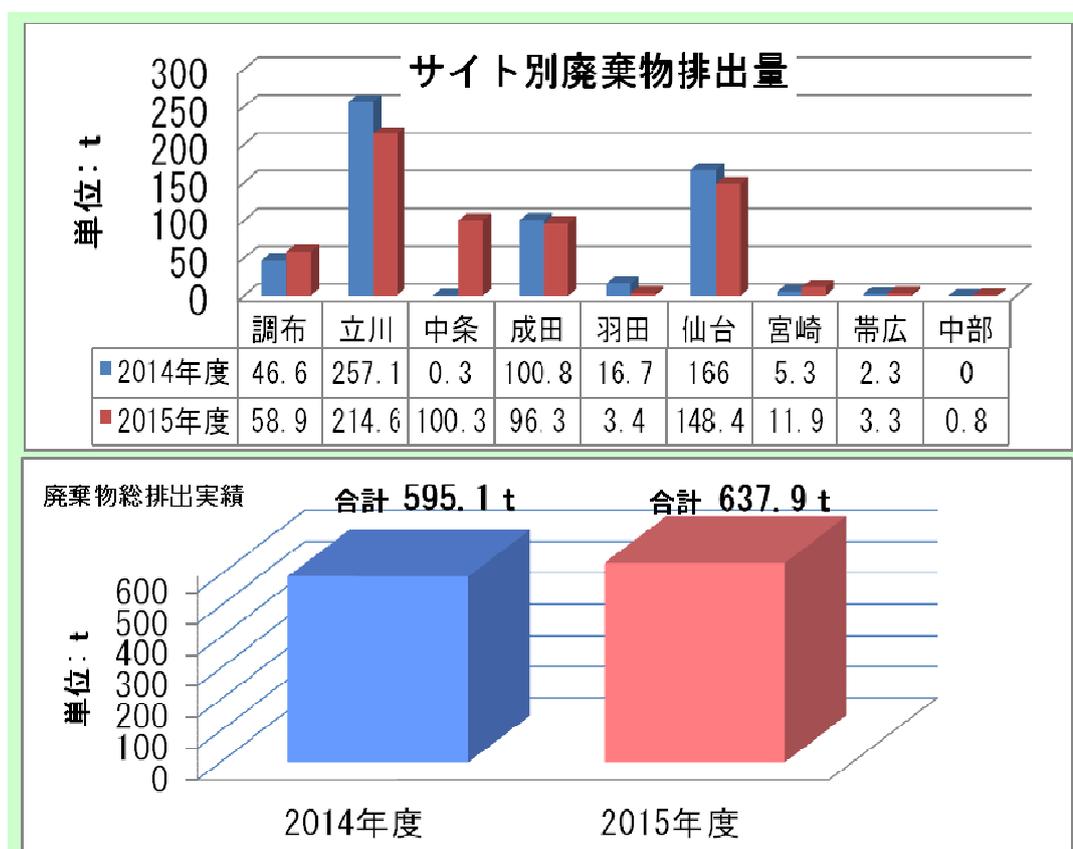
### ■ 2. 2015 年度、廃棄物削減の取り組み

#### <2015 年度全社共通>

目的：廃棄物排出量を削減する。

目標：2014 年度対比 1%以上削減

当社では、事業活動に伴って発生する廃棄物を産業廃棄物と有価物などに分別し、廃棄物の排出抑制と、再利用、再資源化等に努めています。

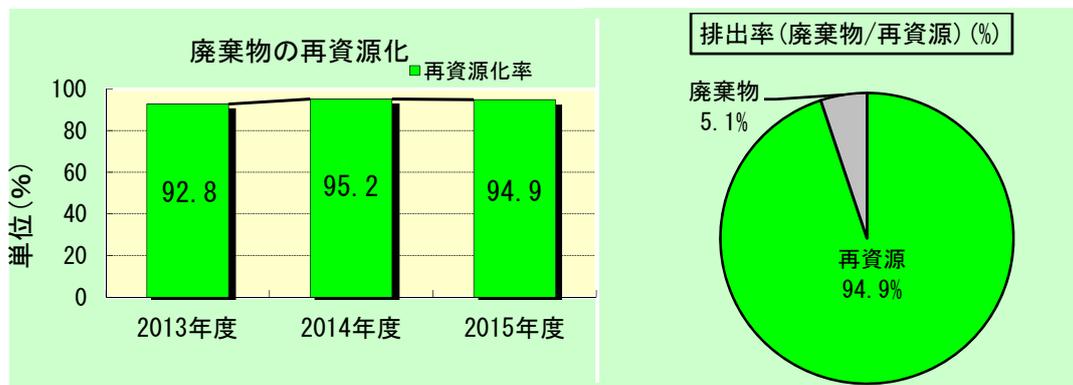


各サイトでは、廃棄物の分別を徹底し、廃棄物として排出していた物の一部を有価物に切り替えるなどして廃棄物の削減に努めましたが、2015 年度の廃棄物排出量は、2014 年度比で 7.19%の増加となり、1%以上削減の目標は達成できませんでした。主な要因としては、調布サイトにおいて洗浄廃液を処理する装置の故障により廃油の廃棄物処理が大幅に増加したこと、また、平成 27 年 3 月より稼働した中条サイトが廃棄物の排出を開始したことが主要因です。

2015 年度の活動実績



■ 3. 廃棄物の再資源化への取り組み



各サイトにて廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の再資源化に取り組んできました。その結果、2015年度の再資源化率は94.9%となり、作業量増に伴い廃棄物となる種類を多く排出し2014年度に対して0.3%低減しました。

## 2015 年度の活動実績



## ■ 4. 2015 年度、その他の取り組み

#### 4.1 航空機による大気観測プロジェクト「コントレイル」チーム 第 24 回地球環境大賞において特別賞を受賞しました (CONTRAIL Project)

このたび、当社が参加する産学官共同研究の民間航空機による大気観測プロジェクト「CONTRAIL」チームが、フジサンケイグループ主催の地球環境大賞において「特別賞」を受賞しました。



2015(平成 27)年 4 月 9 日(木)、秋篠宮同妃両殿下のご臨席のもと、東京都港区元赤坂の明治記念館で授賞式とレセプションが執り行われました。

今回の受賞により、当社が持つ技術力と社会貢献に取り組む姿勢を、関係各省庁や広く一般の皆さんにアピールでき、このたびの一部上場のタイミングのなか、非常に良いニュースになりました。

当社は、2003 年から自動大気サンプリング装置(ASE)と CO<sub>2</sub> 濃度連続測定装置(CME)という 2 つの装置を、研究者からの要求に従って設計・開発を行い FAA(米連邦航空局)や日本の航空局の STC(追加型式設計承認)をジャムコアメリカにて取得し、ボーイング 747-400、777-200ER、777-300ER に観測装置を取り付けています。

ご存知の通り、二酸化炭素は目には見えず無臭なので実際に地球上にはどれだけの量が発生されているか解明されていないのが現状です。そこで、地上観測装置はあっても、上空の観測データは極めて不足していた状況を踏まえ、民間航空機に観測機器を搭載し、世界規模でデータを継続的に収集できるようにしたプロジェクト、それが日本の「CONTRAIL」であり現在世界 No.1 を維持しています。

当社は、長期的、継続的に「CONTRAIL」に参画し、その活動を通じて社会に貢献して参ります。

## 2015 年度の活動実績



### 4.2 「武蔵野の森公園」落ち葉の清掃活動を行いました

秋晴れの 2015(平成 27)年 10 月 24 日(土)、航空機整備カンパニーを中心にジャムコ社員の有志による武蔵野の森公園内の落ち葉の清掃活動を行いました。

これは、航空機整備カンパニーが企画した「秋の武蔵野ウォーク・ラリー」に合わせて有志が集い、企業の社会貢献の一環として武蔵野の森公園の落ち葉の清掃作業を実施したものです。

参加者は 19 名で、当日は朝 10 時に武蔵野の森公園内、大沢第 1 号掩体の前に集合しました。

カンパニープレジデントの挨拶の後、武蔵野の森公園サービスセンターセンター長による作業内容の説明を受け、それぞれ作業服装に身を整え清掃を開始しました。

清々しい好天、また爽やかな微風の中、慣れない肉体労働でしたが献身的な奉仕の精神と OneJAMCO で培われた互いの連携、作業の手際の良さで短時間ながらたくさんのごみ袋を一杯にし、落ち葉を収集しました。



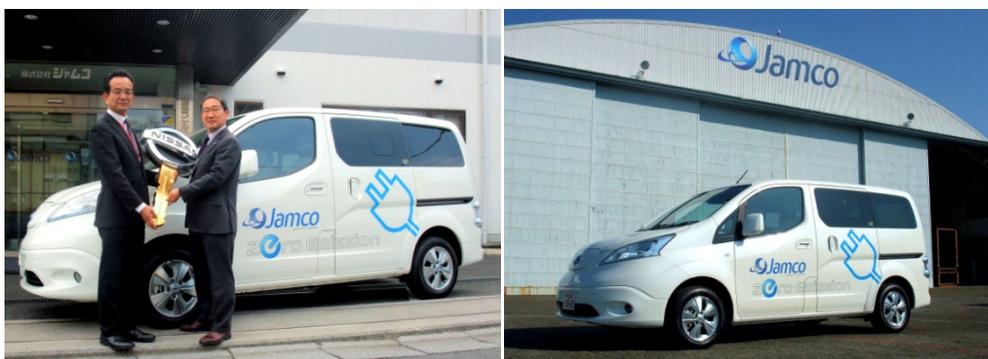
## 2015 年度の活動実績



### 4.3 日産の電気自動車を導入しました

2016(平成 28)年 3 月 23 日(水)、当社は、環境に配慮した取り組みとして、100%電気で動く日産自動車 e-NV200 を 1 台導入いたしました。

導入した車両は、走行中 CO<sub>2</sub> 排出ガスを一切出さないゼロエミッション車であり、お客様の送迎・業務の足として使用することはもちろんのこと、災害時には、蓄電機能や給電機能を活用することにより移動可能な電源としても活用いたします。



#### 導入した車両の性能

- ・日産自動車 e-NV200 ワゴン 乗車定員 7 名

1 回の充電での航続可能距離は、185 km

車内には、電源プラグ (AC100V) が使用可能 ※最大負荷 1,500V

今後も事業活動に伴う環境負荷の低減に向けた取り組みを進めて参ります。

#### ■ホームページの公開

環境報告書はホームページにて公開しています。

<http://www.jamco.co.jp/j/j-profile/eco1.html>



## 株式会社 ジャムコ

〒181-8571

東京都三鷹市大沢六丁目 11 番 25 号

TEL 0422-31-9111(代表) FAX 0422-31-6111

ホームページ <http://www.jamco.co.jp/>